

特定非営利活動法人エフエフジャパン

2006 年度事業報告

(2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日)

海外事業

ベトナム

◆ベトナム子どもの家

2006年5月より、自治労鳥取県本部の支援を受けて子どもの生活状況改善支援事業が期間3年の予定で開始されました。この事業は子どもの家だけでなく、後述のホンバン愛の家も対象とし、両施設に保護されている子ども達計約20名が支援を受けています。本事業は、安定した衣食住環境を維持するために子ども達の食費を中心とした支援、及び、情緒や社会性を養う機会を作るための文化活動支援の2つを目的としています。現在は食費が約2倍に増え、質、量ともに大きく改善されました。また課外活動が増え、両施設合同での泊りがけの遠足も行われ、子ども達の交流の場が増えました。発育途中の子ども達が、本支援事業開始により心身ともに大きく成長してく様子が見えています。

2006年6月より、自治労栃木県本部の支援を受けて子どもの家職員処遇改善支援事業が開始しました。子どもの家には保育や勉強、職業訓練などに従事する約13名の職員達がいいます。調査結果から、やはり財政難により彼らの給与は最低限望まれる金額よりも30%以上も下回っていることがわかりました。職員は皆熱心ですが、実際には現実的な問題から離職も少なくありませんでした。そこで、処遇支援を通して、職員が更なる責任と熱意の持続を形成し業務に専念することで、子どもの家の安定した活動と発展を目指すために本事業を開始しました。本事業の期間は5年間、子どもの家の全職員を対象に、上述の30%に当たる部分を支援しています。また本事業開始に伴い、子どもの家とエファジャパンとで必要に応じて新しい活動を開始する話し合いも積極的に持たれています。その一つとして、これまでに男の子の職業訓練教室がなかったことを考慮して、理容師養成教室が開設されました。熱心な先生のもとに男女とも多くの生徒が楽しく学んでいます。

◆ホンバン愛の家

2006年5月より自治労鳥取県本部の支援にて、子どもの生活状況改善支援事業が子どもの家とともに開始されました。慢性的な財政難は子ども達の生活を既に脅かしており、何人かの子どもは学校等の合間に靴磨きや新聞売りのアルバイトをして運営資金の一部を担っている状況でした。そのため子ども達が施設内で子どもらしく過ごす時間が減少し、施設の外では職員の目も届きにくいことから、非行や犯罪の危険も心配されていました。そこで、本支援事業開始によって子ども達の就労を一切なくすことをホンバン区人口家族子ども委員会と確認しあい、子どもを取り巻く環境が大きく変わりました。就労しなくなったことで課外活動に参加する時間ができ、自治労栃木県本部の支援によってさらに充実した子どもの家での活動にホンバン愛の家の子どもたちも通うようになり、現在はいくつかの支援事業が相乗効果をあげるようになってきています。

◆アジア子どもの家奨学金基金

1999年より自治労栃木県本部が計500万円をハイフォン市に委託し、その利子のみを奨学金として活用し、これまでにハイフォン市の様々な児童保護施設の子ども達に授与されました。現在はハイフォン市児童保護基金の管理のもとに、2006年は数十人の子どもに文房具等が授与され、障害児や緊急治療の必要な子ども達の医療費がまかなわれ、また子どもに保護されている子ども及び通っている子ども達には健康保険料が支払われました。2006年よりエファジャパンが本事業に関与する合意を結ぶことで、これまでに滞っていた報告の受領をおこなうことができ、本事業にかかる必要な調査や協議を児童保護基金とともに進めることになりました。

当基金創設当時の金利は12%だったところ現在は約半分の6%程度しかなく、物価の上昇の問題はありますが、元金を崩すことなく最も効果的な方法を児童保護基金と協議しながら進めていきたいと思っております。

◆子どもの早期ケアと発達支援

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの共同事業で、山岳地域のイエンバイ省にて少数民族を含めた子どもの総合的学習支援事業を地元政府機関による運営委員会とともに進めています。子ども達の発育状況改善とともに、運営員委員会や住民の能力向上を目指し、地元において自主的に継続活動ができるような指導を続けています。僻地では、幼児期における教育や様々なケアの重要性が地域で認識されていないことが問題であり、地域の全体の能力向上とフォローアップ事業が重要な課題です。

調査では、既に地元主導型に移行しつつある活動も見られ順調に進んでいることから、前年度の共同事業内容を再検討し、2006年度は予算を約三分の一に減らし、そのかわり人材育成のための研修事業に焦点をあてることにしました。保育士研修、母親・父親学級、青年層における幼児教育指導、離乳食指導、おもちゃや教材作りなどの研修支援を重点的に行ったことで、就学前教育の質の向上と重要性の認識を高め、住民参加型の活動を活発に展開させることが出来ました。

◆商品開発について

子どもの家所長、刺繍や縫製の先生とともに協議の上商品開発を進めています。販売を通して会員や購入者の皆様にいただいたご意見を参考に、作業をする子どもや職員の負担にならないように工夫をしながら、より好評いただける商品を目指しています。本事業を通して、毎年多くのご注文をいただいている自治労布袋の製作に加え、徐々に様々な方から記念品製作の注文も増えております。注文が増えるにしたがって子ども達の技術も向上し、現在は上手な子どもは一般のお店からも注文を受けるようになり、安定した収入源になりつつあります。

収支		
収入	エファグッズ	2,890,200
	自治労布袋	5,369,500
収入合計		8,259,700
支出	仕入れ、輸送経費、雑費等	7,310,874
支出合計		7,310,874
利益		948,826

◆ その他

ベトナムで海外の NGO が活動するには PACCOM (パッコム) という政府機関に登録をしなければなりません。エファジャパンも 2006 年 6 月に規定の手続きを終え、10 月に正式に活動認可があり、12 月の出張で PACCOM を訪問した際に認可証書を受け取って来ました。今後は年に 2 回、会計と事業報告を送り情報を共有し、登録 NGO として必要な際には PACCOM の協力を受けることが出来ます。

ラオス

◆ ヴィエンチャン市立図書館・多目的ホール (石田記念館) 建設・運営支援

ヴィエンチャン市立図書館・多目的ホール(石田記念館)(以下「図書館・ホール」と呼ぶ)の建設工事は、当初 2006 年 7 月中には完成の予定でしたが、悪天候による遅れと、8 月に入って一部の追加工事を発注したため、最終的に工事が終了したのは 9 月 22 日の現地完成式典(譲渡式)の直前となりました。

一方職員予定者の開設準備室(「子どもの家」内)への配属は 4 月前後から始まり、5 月には職員研修が行われました。さらに 6 月になって 1 名が加わり、計 6 名からなる職員体制が確定しました。並行して図書の購入・受入・整理、備品の発注・搬入も進められました。

10 月下旬の暫定開館を経て、エファジャパンは 11 月から運営支援を開始し、2007 年 4 月には所管部局である情報文化局と合意文書を交わしました。

「図書館・ホール」建設の概要

- 支援団体 = 自治労中央本部および北海道・東京都・愛知県の各県本部
- 提携 NGO = 社団法人 シャンティ国際ボランティア会[現地]
- ラオス政府の所管部局 = ヴィエンチャン特別市 情報文化局
- 建築物の構造 = 鉄骨併用鉄筋コンクリート造平屋建
- 建築面積 = 775 m²(うち図書館部分 422 m²、多目的ホール部分 275 m²)
- 建設工事 2006 年 1 月/着工、9 月/完工
- 開館時の蔵書(図書) = 6,349 冊(うち児童書 1,658 冊)
- 開館時の職員 = 館長以下 6 名(契約職員 2 名を含む)

□開 館 2006 年 10 月/暫定開館(館内利用のみ)、12 月/開館

◆ルアンパバン子ども文化センター

自治労の支援により首都ヴィエンチャン市に設立されたラオス子どもの家は、失われつつある伝統文化を子どもたちに継承することを目的に運営されています。この事業が成功し、子どもの家をモデルにした子ども文化センターが様々な県に作られています。その中でも、ルアンパバンにある子ども文化センターは、2001 年より自治労佐賀県本部が運営支援を始め、活発な活動をしています。また、伝統文化の継承だけでなく、同時に子ども達の自主性、積極性、想像力なども育てています。昨年の評価会議では、指導者も熱心で子ども達も積極的に参加しているなど活動は順調であるが、財政難の問題から施設運営や職員の待遇支援が今後も必要である、という結果が報告されました。本支援事業は 2007 年 12 月末で終了することになっているため、2007 年は現地調査等を通して現場の声を考慮し、フォローアップに向けた対策を考えていく方向です。

カンボジア

◆カンボジア子どもの家とスラムの子ども奨学金事業

1997 年、自治労の支援によって、カンボジアの首都プノンペンにある国立幼稚園教師養成学校の附属幼稚園として設立されました。子どもの家は養成学校の研修の場でもあり、教育者と子どもの双方を育成する施設としてカンボジアの教育事業に大きく貢献しています。子どもの家は、特にスラムの貧困家庭にとっては教育と栄養と安全を同時に受けることが出来る唯一の場所であり重要な存在になっています。

エファジャパンの支援しているスラムは主に三箇所、それぞれ特徴はありますが共通していることは貧困、不衛生、そして子どもの数が非常に多いことです。スラムの住民は日雇いや屋台売りの仕事をしているため生活は不安定で低収入です。日々の生活に追われ、子どもに教育を受けさせる余裕もなく、時には子どもに労働を課すこともあります。エファジャパンは、どのような境遇においても子どもが教育にアクセスできるように支援を続けています。

これまで、自治労奈良県本部の支援によりスラムの 26 人の子ども達が奨学金を受けて子どもの家で学ぶことが出来ました。スラムの子どもは小学校へ入学しても脱落してしまうことが多い中、幼稚園で学んだ子どもは既に多少の読み書きが出来るため授業についていくことができ進学率が高いといわれています。奈良県本部の支援は 12 月末で終了しましたが、現在はエファジャパンが本支援事業を引き継ぎ 26 人全員が元気に通っています。今後もスラム内での教育啓発活動を通して教育支援を行い、就学率向上と児童労働撲滅を目指します。

◆カンダール州及びプノンペン市における公立幼稚園保育研修及び保育教材普及支援事業
カンボジア教育省の要請を受け、2004年から4年計画で、若い難民を考える会とエファジャパンとの共同事業により、カンダール州全ての公立幼稚園の保育者研修を行うほか、劣化した進んだ幼稚園の改築工事、教材・遊具の使途状況の調査を行いました。改築工事は11月に終了し、現在は子ども達90名が通っています。また、研修の結果、多くの幼稚園で随所に自発的な工夫が見られるようになりました。尚、昨年度建設したプノンペン郊外の幼稚園においては指導と観察の必要性が残り、フォローアップを一年延長することになりました。現地の州担当者や幼稚園担当者が研修後も自らフォローアップできるように繋げていく予定です。

◆SHARE（国際保険協力市民の会）との共同事業

かねてより自治労神奈川県本部がSHAREと行ってきた支援事業に、1月より自治労本部の支援が加わり、エファジャパンも共同事業者として参加しました。本支援事業ではヘルスセンターの能力向上支援とともに、ピアエデュケーションという仲間間で教育をする自発的手法の体制強化も行っており、これは特にHIV/AIDS防止に効果的な方法です。子ども達の健全な将来を支えるという共通の考えのもとに、関係者各位と協力して、共同事業者として問題解決に向かっていきます。

人道・緊急支援

パキスタン地震被災者支援

2005年10月8日、に発生した地震は死者7万人以上、家を失った人約280万人という甚大な被害を及ぼしました。

エファジャパンが支援を始めた頃（2006年春）から夏を迎えるにあたり、気温の上昇と避難生活による人口の密集により下痢や皮膚炎の流行など衛生状況の悪化が懸念されました。そこでエファジャパンはJVC（日本国際ボランティアセンター）と共同で、被災地の衛生対策支援として簡易トイレの設置を行いました。

・村落トイレ

設置されたトイレを、住人が「地域の持ち物である」という意識を持ち、自主的・積極的に正しく使用・管理できるよう、住民による自主的な設置を基本にしています。

・衛生指導

トイレ設置と同時に現地の衛生指導員が村や小学校を巡回して、歯磨き・水浴び等の生活習慣について指導を行い、終了後に手洗い用の器やタオル、石鹸などを手渡します。

・学校トイレ

UNICEFの「ウェルカム・トゥー・スクール」キャンペーン（崩壊した小学校が再建さ

れるまでのあいだ、テント学校を設置し授業を受けられるようにする支援事業)に協力し、仮設学校トイレの設置も行いました。

◆実績（JVCによる事業全体のうちエファジャパン共同部分）

- ・村落トイレ 合計 142 基
- ・学校トイレ 合計 70 校
- ・衛生指導 合計 12,929 人 ※事業資金の支出は 2005 年度に終了

ジャワ島中部地震被災者支援

2006 年 5 月 26 日にジャワ島で発生した地震は、死者が 6,000 人にのぼる大きな被害を引き起こしました。エファジャパンでは同 6 月 1 日から 7 日まで職員を現地に派遣し、現地 NGO 二団体（ディアン・デサ財団、アマルタ・インスティテュート）と連携して被災状況を調査。支援を行うことを決定しました。

・ジャワ島支援のための募金

2006 年 6 月よりジャワ島支援のための募金を開始しました。同 10 月までの間に個人 30 名、団体・グループ 22 団体から合計 9,055,596 円の寄付をいただきました。

・支援事業

居住地でのテント生活を続けながら復興を目指す住民を支援するため、住環境の整備を行います。まず、住民の健康を守ることを優先し、公共トイレの設置を現地 NGO と共に実施しました。ほとんどの家屋が倒壊し、水道などのインフラ設備も破壊された状態でのテント生活では衛生環境の悪化が懸念され、体力が低下している被災者には感染症・伝染病の危険も高くなります。二次災害を防ぐ意味からも、衛生管理は大変重要です。

また、もともと共同体での互助が活発な地域であるため、住民委員会の集会所も倒壊したため、村の主体的な自立のために、倒壊した住民委員会集会所の仮建設も行うこととしました。

- 仮設トイレ設置事業 29 村 65 基 (ディアン・デサ財団) 総額 300 万円
2 村 40 基 (アマルタインスティテュート) 総額計 100 万円

- 雨季対策建物修繕事業 継続中 (アマルタインスティテュート) 予算 200 万円

国内事業

イベント

◆設立2周年記念イベント：大石芳野氏写真展・対談

エファジャパン設立2周年を記念し、フォトジャーナリスト・大石芳野氏の写真展、およびエファジャパン理事長イーデス・ハンソンとの対談を東京・銀座のシンワアートミュージアムにて開催しました。(写真展：2007年2月27日～3月4日、対談：2月28日。)約170名の方にご来場いただき、好評のもと終了いたしました。

写真展では、大石氏が1980年代より撮影してきたアジアの子どもたちの写真約60点を展示。戦争で傷つきながらも逞しく生きる子どもたちの写真に来場者は熱心に見入っていました。来場者アンケートには「子どもたちの瞳の奥に戦争の悲惨さ、やりきれない苦しみを感じた」「平和のために一人の存在として何ができるのか考えさせられた」などの感想をいただきました。また、大石氏と理事長との対談では、フォトジャーナリスト、NGO代表のそれぞれの立場からアジアの子どもたちに関わる中で感じてきたこと、活動への思いなどが語られ、来場者の共感を呼んでいました。

【協力企業】シンワアートオークション株式会社(会場提供・イベント運営)、株式会社フレームマン(写真展示)【イベントボランティア】延べ16名

◆その他2006年度に参加した主なイベント

- ・メーデー中央大会(4/29・東京)
- ・NTT労働組合児童労働撲滅キャンペーンイベント(5/21・大阪、6/4・横浜)
- ・自治労第78回定期大会(8/24-25・埼玉)他各種集会
- ・グローバルフェスタ JAPAN2006(9/30-10/1・東京)
- ・国際協力市民講座(11/25・茨城)他

スタディーツアー

支援現地の様子や支援の成果を実際に肌で感じていただき、エファジャパンの活動や国際協力への理解を深めていただくことを目的に、会員・一般の方を対象としたスタディーツアーを毎年実施しています。2006年度はベトナム、ラオスへのツアーを実施しました。

◆ベトナムスタディーツアー(2006年9月5日～12日)

ハイフォン市の二つの児童保護施設(子どもの家、ホンバン愛の家)を訪問し、識字教室や職業訓練教室の様子を見学したり、子どもたちとの交流の時間を楽しみました。続いてイェンバイ省での幼児教育事業を視察。幼稚園訪問、保護者研修の見学、家庭訪問などを行ないました。ツアー後半では、山岳少数民族の村(サパ、バックハー)を訪問。格差の広がりつつあるベトナム社会の様々な側面に触れるツアーとなりました。(参加者3名)

◆ラオスタディーツアー（2006年9月17日～24日）

完成式典直前の「ビエンチャン市立図書館・多目的ホール（石田記念館）」を訪問し、開設準備支援を行うボランティアツアーを実施。式典直前の準備作業（植樹・芝張り・資料配架・清掃・日本の公共施設での実践例の解説・建物備品の検査など）を、現地の施設職員と一緒に行いました。植樹作業では、近隣の中学校の生徒や現地園芸業者の方と一緒に汗を流しました。ツアーの最後には完成式典にも参加しました。（参加者7名）

【参加者の声】

「NGOの存在が地域の人々にとって、どれほど心強いかということをしつかりと見られてよかったです。他のNGOスタッフのお話を聞いたり、現地の行政職員との質疑の時間等もあり、大変充実したツアーでした。」（ベトナムツアー参加者の感想より抜粋）

広報

◆団体パンフレット

2006年5月に改訂。デザインを一新するとともに、エファジャパンの活動全体を網羅した内容へ変更しました。

◆広報誌「えんばわ」

2006年4月にエファジャパン広報誌「えんばわ」創刊。エファジャパン会員他、関係者・関係団体、全国地域国際化協会、全国ボランティアセンター等へ配布しています。発行：季刊、8,000部

- 【特集記事】第1号「パキスタン地震から半年 被災者の今」（パキスタン）
第2号「もう働かなくてもいいんだって！」（ベトナム）
第3号「本不足の国にできた新しい図書館」（ラオス）
第4号「カンボジア スラムに生きる子どもたち」（カンボジア）

◆ホームページ（<http://www.efa-japan.org/>）

2006年8月にリニューアル。制作ソフトの更新によりリンク切れの問題を解消し、事業の紹介を充実しました。現地の子どもたちの様子をお伝えするため、より多くの写真を掲載しています。

◆エファ通信（メールマガジン）

月1～2回配信。エファジャパン会員他ご希望の方にエファの活動報告、最新情報をお知らせしています。

◆活動紹介DVD

エファジャパンの活動を紹介するDVDを制作しました。ベトナム・ラオス・カンボジ

アの現地の様子や子どもたちの暮らしぶり、国内でのイベント、ボランティア活動の様子などを約 20 分にまとめています。イベント・集会などで上映し、多くの方にエファの活動をご覧いただけるよう機会を増やしていきたいと考えています。

ボランティア

◆エファボラ（エファボランティアデー）

2006 年 7 月より事務局ボランティアを一般募集し、毎月最終木曜に事務局に集合してボランティア活動を行いました。ボランティア内容は、広報誌の発送作業やエファグッズの在庫確認など。毎月 3～10 名の方にご参加いただき、ボランティア登録していただいた人数は 18 名になりました。

◆イベントボランティア

4 月のメーデー、10 月のグローバルフェスタ、2 月のエファジャパン設立 2 周年記念イベントにおいてボランティアのみなさんにお手伝いいただきました。イベントは土日・祝日に行われるため高校生から社会人まで幅広い年齢の参加があり、イベント運営のボランティアだけでなく、家族・友人をイベントに誘うなど様々な形で応援していただきました。